

科学と社会委員会（第22期・第8回） 議事要旨

1 日 時 平成24年10月10日（水） 12:00～13:00

2 場 所 日本学術会議5階 5-B 会議室

3 出席者

（委員）小林 良彰（委員長：第1部） 生源寺眞一（副委員長：第2部）  
上野 千鶴子（幹事：第1部） 依田 照彦（幹事：第3部）  
戸山 芳昭（第2部） 鷺谷いづみ（第2部）  
黒田 玲子（第3部） 土井美和子（第3部）

（欠席）丸井 浩（第1部）、吉川 洋（第1部）

（事務局）伊澤参事官補佐、鳥生審議専門職、原審議調査専門職

4 議事要旨

（1） 第3回議事要旨（案）の確認

（2）小林委員長から、大学の分野別質保証推進委員会の在り方等について、説明があり、意見交換が行われた。

○ 中教審で議論していることは、設置基準の大綱化で間口を広げ、18歳の人口が増えたときに、かなりの大学を認めたわけですが、実は、教育上かなり問題のある大学がある。それらの大学に、最低限これだけをやってくださいということを文部科学省の中教審は考えている。

○ 日本学術会議で議論していることは、そこに焦点を当てているわけではなく、大学プラスαくらいを中心に、より社会に応えるため、あるいは国際化に応えるために、もっとどうするかという形で行っている。

○ 1つの分野別委員会の中で、たくさんの参照基準を作るということはあり得る。一方、複数の分野別委員会で1つの参照基準分科会を作るということはあり得る。

○ 中教審でも同じような議論をしているのですが、日本学術会議で議論したものは参考にしないような気がする。議論しているものが使われないのは寂しい気がする。

（3）査読体制等について

○ 小林委員長から、課題別委員会の提言等の査読体制等について、説明があった。法規集の中にあるガイドラインでは、完結した草稿とは、十分な推敲を重ねて高い完

成度を備えた文章を指すとあるが、実際には、日本語が不適切、誤字、脱字、誤変換が多いなど、資料2-1に沿って説明があった。

(4) 課題別委員会進捗状況について、資料2-3に沿って（小林委員長から）説明があった。

- 「大学教育の分野別質保証推進委員会」は、「法学」、「言語・文学」及び「学位付記」の報告・提言が残っており、他の課題別の委員会は順次提言等が出てくる予定。課題別委員会については、前期で先送りされたものがあり、提言案等が出てきて査読中であれば、その期間の延長はするが、出てこない場合は、可能な限り、原則延長しない方向で進めることとなった。

(5) その他

- 査読に際し、各査読委員からの意見を委員長がとりまとめ、提言等の草稿作成者等に送付されるが、その送付される意見書を各査読委員にフィードバックしてほしい。他の査読委員の意見も共有した方がいいと思う。  
→本意見を踏まえ、事務局から必要な資料を送付することとなった。

(以上)